

C-1 日本人青年女子の肌色の季節の変化について
(第1報)
—東京地区における—

東京家政大家政 ○木曾山かね
檜垣 晴恵

1. 先に、日本人青年女子の皮膚の色や乳歯期男女児の皮膚の色について測定したが、本年は日本人青年女子の春夏秋冬各季節の肌色について測定し、考察を行なった。本研究は衣服の色との調和を論ずるための資料をつくることを目的とした基礎実験である。

2. 測定の方法は、視感測定で行なった。測定月日は、春は昭和44年4月下旬室温 15°C 内外、秋は昭和43年10月中旬、室温は 20°C 内外、冬は昭和44年2月初旬、室温は 2°C 内外、湿度は春秋冬いずれも65%内外で、皮膚面の照度は450Luxから500Luxの間で測定した。初夏であり標準の肌色である昭和44年6月中旬、室温は 20°C 内外、湿度65%内外の時に測定した。被験者の年齢は、女子19歳40人、21歳60人計100人、その状況は、都内通学生81%、近県からの通学生19%の割合で化粧をしない皮膚を測定した。

3. 以上の結果をまとめると次の様である。

(1) 腕の内及び胸上部中心に於ては各シーズンを通して7.5YRの人が目立って多く、

(2) 額及び腕の外側に於ては各シーズンを通して5.0YRが多い。

(3) 初夏の色を基準として各シーズンとの関係をみると、明度も彩度も変らない人が多い。気温との関係がみられ7.5YR及び5.0YRの人に多く動きが感じられた。